

## 【トラック7】

まる「ふふっ...ふふふっ...ひいふうみい...」  
まる「お金の勘定をしている時こそが人生の愉悅ですね...」  
まる「このまま特別メニューで客単価をあげにあげて...むふふふふ...♡」

まる「とはいえ...路地裏で立地も悪いし、中は狭いし...」  
まる「お客さんは怪しんでなかなかこないし...」

まる「はあー...経営とは難しいものですねえ」  
まる「まるはただ喜んでもらってお金が欲しいだけなのですが...」  
まる「いつまで、続けられるのでしょうか...」

まる「いつまで...ですか、はあ」

まる「あれ？この封筒って...差出人は、と」

まる「...っ！こ、これって...まさか...い、急いで中を...」

まる「そ、そんな...もう時間が...」

まる「はっ、い、いらっしやいませー！喫茶マルへようこそー！」

まる「ってお兄さんでしたか...こんにちは、今日は早めの晩御飯ですか？」  
まる「ん〜と、そうですね...」  
まる「ちょうど仕込んであったのでハンバーグすぐ作れますよ〜」

まる「え？いつもと少し違う...？」  
まる「べ、別にお兄さんの気のせいじゃないですか？」  
まる「マルはいつものマルですよ♡」  
まる「それより、マルのハンバーグは絶品なのですよー！」  
まる「作り方の工程がポイントでして、こう中から肉汁がじゅわ〜っと」  
まる「...マルが食べたくなくなってきました」

まる「高級肉を使用したゴージャスハンバーグ！」  
まる「今ならなんと前菜、ライス、特製スープ、デザートもついてお値段2千円！！」

まる「え？珍しく良心的？」  
まる「...もうお兄さん、マルカフェをぼったくり店か何かと勘違いしてませんか？」

まる「ここは癒しの空間...雑踏や無機質な街並み、人の軋轢や仕事のストレス...」  
まる「日々の疲れを持ったお客様が...マルとひと時を過ごして癒される...」  
まる「そんな素敵空間なのですよ？」

まる「女の子がエッチな誘惑をして値段を釣り上げる...」  
まる「みたいなお店と一緒にしないでください」

まる「それじゃあ、お席座ってください...」  
まる「今お水(有料)入れますから」

まる「それで、ご注文はどうしますう？」  
まる「先ほどのゴージャスハンバーグで良いですか？」  
まる「あ、コースにコーヒーも付きますよ」

まる「はいー！ご注文承りました...と、ここで...マルカフェ特別ゲーム！ででん！」

まる「いや、最後まで聴いてくださいよお...楽しいゲームですからあ...」

まる「さてお兄さん、このカフェのテーマを思い出してください、そう...乳首です」  
まる「今からお兄さんには乳首当てゲームをしていただきます！」

まる「でも前みたいにお兄さんの乳首をマルが当てるんじゃないですよ〜？」  
まる「今度はあ、お兄さんがマルのち・く・び...当てちゃうんです♡」  
まる「見事当てたらなんと無料です！これはお得〜！」

まる「外したら20倍のお値段をいただきます」

まる「さあどうぞ、遠慮せずマルのおっぱいに人差し指を当てちゃってくださいっ！」  
まる「え〜、やらなくていいんですかぁ？」  
まる「マルの柔らかかつぱいの感触、確かめたくないですかぁ？」

まる「お兄さんに当てられたらあ...あんっやっ...ちくびい...いいよお...って」  
まる「感じちゃって喘いじやうかも♡」

まる「ほら、当てるだけですよ？簡単ですよ？ささ、どうぞ♡」  
まる「...んふふ〜、ぴと♡」  
まる「あー、残念、ちょっと外れてましたっ！」  
まる「え？当たってないですう、ハズレですう」

まる「お値段は20倍いただきますけど...」  
まる「いつもお世話になってるサービス、付けてあげましょうかぁ？」

まる「くすっ、お兄さん本当はそれ目当てのくせに♡」  
まる「それじゃ、お食事前にちょっと楽しいこと、しちやいましょ？」